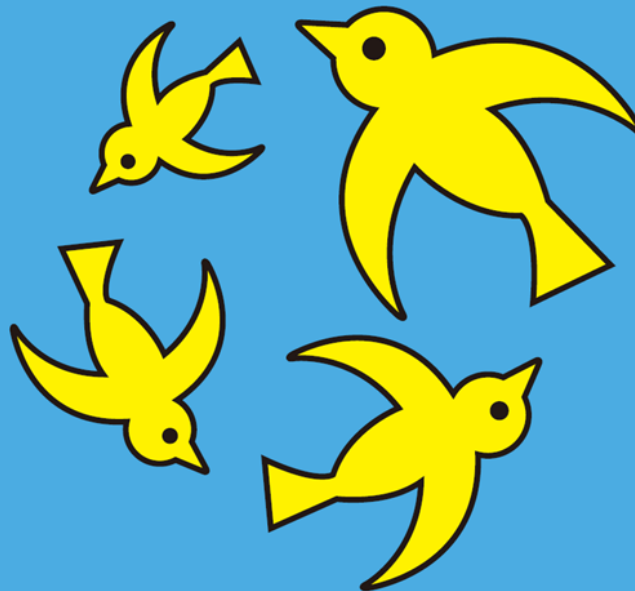


新しい学習指導要領

生きる力

学びの、その先へ



新学習指導要領の全面実施と 学習評価について

大分県教育庁義務教育課



1. 大分県における中学校英語教育の現状

2. 新学習指導要領のポイント

3. 外国語科における学習評価
 - (1) 学習評価の基本的な流れ
 - (2) 学習評価の事例 話すこと [やり取り]
 - (3) 学習評価の事例 読むこと



1. 大分県における中学校英語教育の現状

大分県における中学校英語教育の現状①



◆生徒の英語力の状況（調査対象：中3）

【CEFR A1レベル=英検3級以上】 * 国が示す目標値 50.0%

| | 外部試験の受験経験 | | CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒 (a) | | CEFR A1レベルの英語力を有すると思われる生徒(b) | | CEFR A1レベルの英語力を有すると思われる生徒(a+b) | |
|-----|-----------|-------|-----------------------------|-------|------------------------------|-------|--------------------------------|-------|
| | 大分 | 全国 | 大分 | 全国 | 大分 | 全国 | 大分 | 全国 |
| H30 | 37.4% | 42.3% | 22.4% | 23.9% | 17.1% | 18.7% | 39.5% | 42.6% |
| R1 | 38.7% | 44.8% | 21.4% | 25.1% | 16.8% | 18.9% | 38.2% | 44.0% |

◆生徒の英語力の状況の推移（調査対象：中3）

| 年度 | 大分県 | 全国 |
|-----|--------------|-------|
| H27 | 33.9% | 36.6% |
| H28 | 36.1% | 36.1% |
| H29 | 43.1% | 40.7% |
| H30 | 39.5% | 42.6% |
| R1 | 38.2% | 44.0% |

大分県における中学校英語教育の現状②



◆「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の設定状況等

| | 「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を設定している学校 | | 学習到達目標を公開している | | 学習到達目標の達成状況を把握している | |
|-----|-------------------------------|-------|---------------|-------|--------------------|-------|
| | 大分 | 全国 | 大分 | 全国 | 大分 | 全国 |
| H30 | 100% | 90.0% | 20.3% | 20.8% | 63.4% | 49.2% |
| R1 | 100% | 92.3% | 22.0% | 25.4% | 54.2% | 49.9% |

◆スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの状況

| | スピーキングテスト・ライティングテスト両方実施 | | スピーキングテストのみ実施 | | ライティングテストのみ実施 | | 両方実施無し | |
|-----|-------------------------|-------|---------------|------|---------------|------|--------|------|
| | 大分 | 全国 | 大分 | 全国 | 大分 | 全国 | 大分 | 全国 |
| H30 | 77.0% | 83.7% | 10.0% | 8.8% | 10.1% | 6.2% | 3.0% | 1.3% |
| R1 | 79.9% | 86.1% | 8.5% | 8.0% | 11.3% | 5.5% | 0.3% | 0.4% |



2. 新学習指導要領のポイント



【学習内容の改善・充実】

- 対話的な言語活動を重視する観点から、「話すこと[やり取り]」の領域を設定するとともに、語彙、文法などの言語材料と言語活動とを効果的に関連付けて、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにすることとした。
- 取り扱う語彙数について、現行の1200程度の語から、五つの領域別の目標を達成するための言語活動に必要となる、小学校で学習した600～700語に1600～1800程度の新語を加えた語とした。
- 文、文構造及び文法事項について、表現をより適切でより豊かにするなどの目的で、「感嘆文のうち基本的なもの」や「現在完了進行形」など数項目を追加した。

【学習指導の改善】

- 小・中学校の学びを接続するため、指導計画の作成に当たっては、語彙、表現などを繰り返し活用することによって、生徒が自分の考えなどを表現できるまで発信力を高めることなどを明記した。
- 言語材料については、発達の段階に応じて、生徒が受容するものと発信するものがあることに留意して指導することを明記した。
- 授業は英語で行うことを基本とすることを新たに規定した。
- 教科書の改善に向けて、教材の中で五つの領域別の目標と言語材料や言語活動との関係を單元ごとに示すよう明記した。

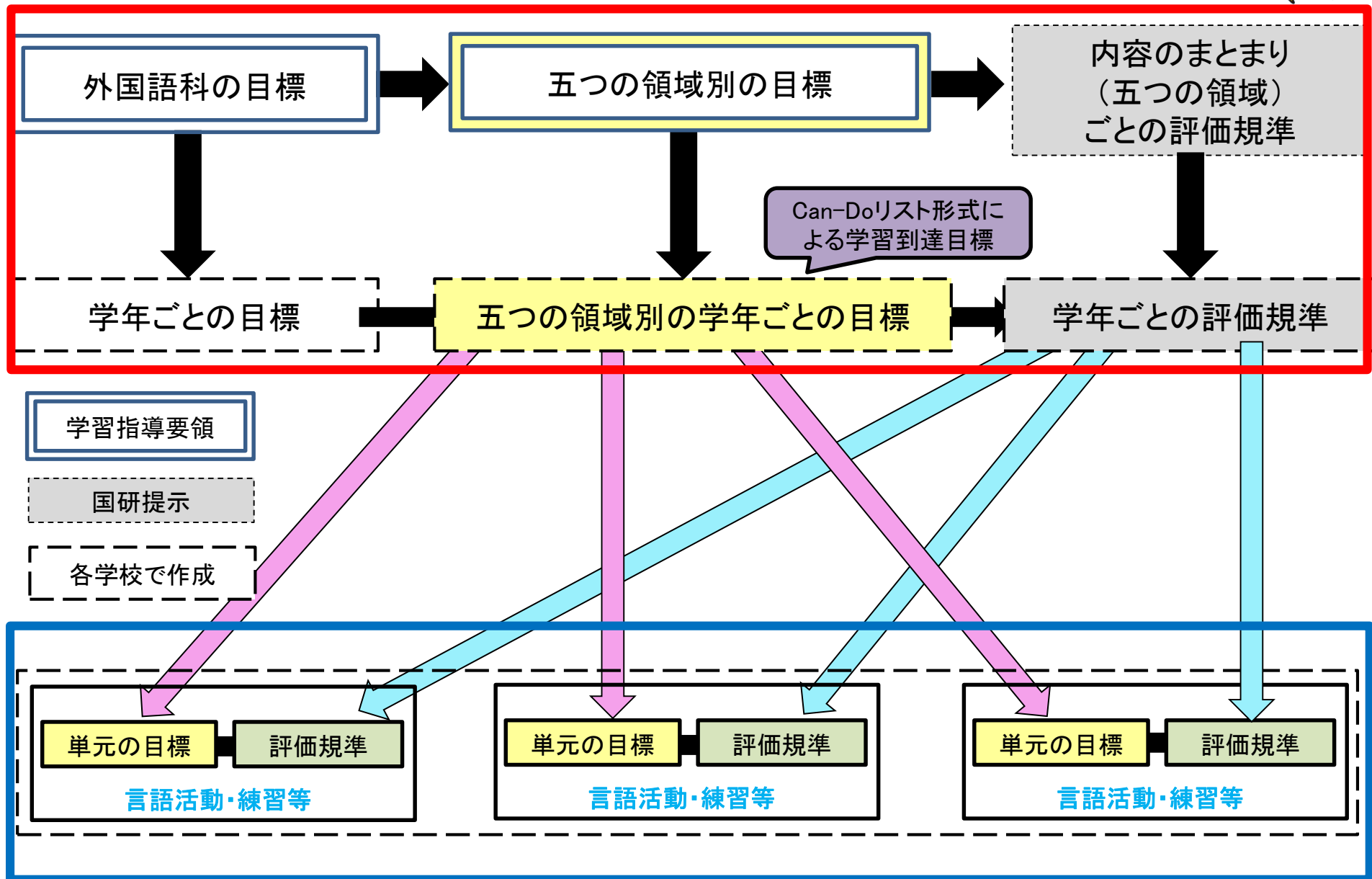


3. 外国語科における学習評価

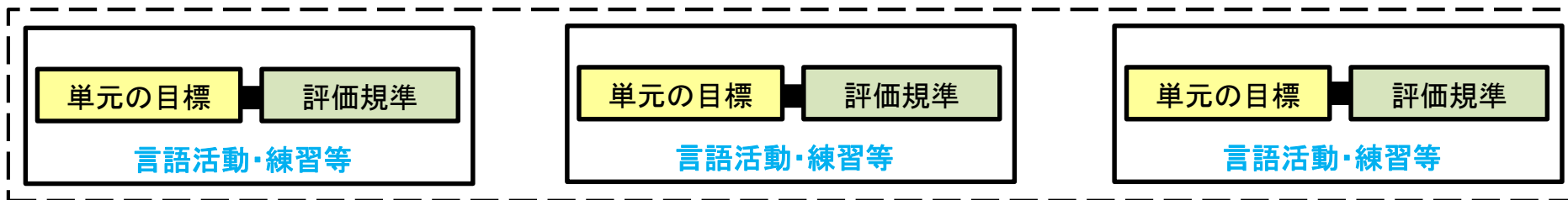
(1) 学習評価の基本的な流れ



外国語科における目標と評価規準との関係性

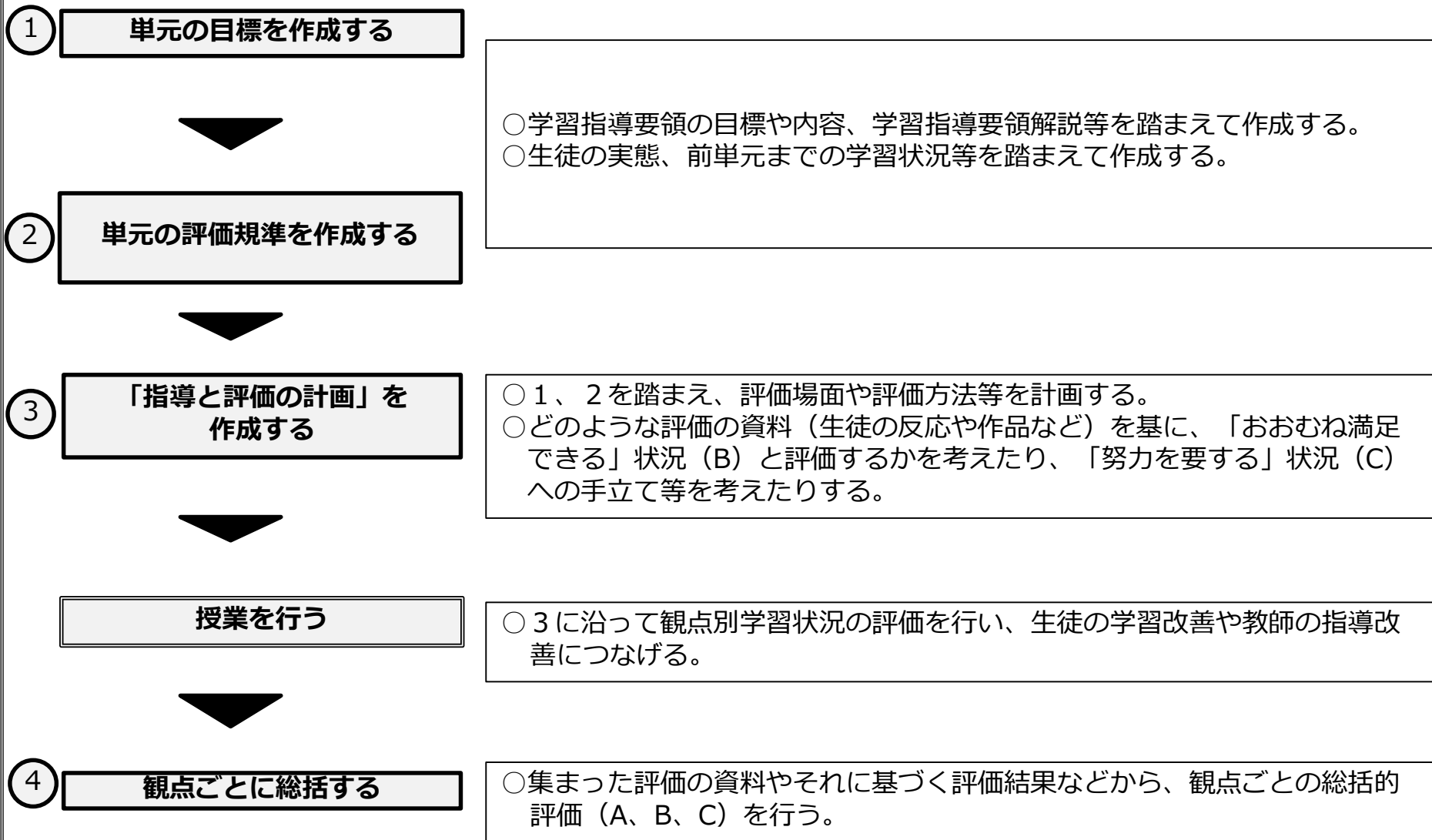


英語4技能5領域における学習評価



3観点 × 5領域 = 計15項目に関する評価情報を得る。

| | 聞くこと | 読むこと | 話すこと [やり取り] | 話すこと [発表] | 書くこと | 観点別 評価 | 評定 |
|-----------------------|------|------|----------------|--------------|------|-----------|----|
| 知識・技能 | | | | | | | |
| 思考・判断・ 表現 | | | | | | | |
| 主体的に学習 に取り組む 態度 | | | | | | | |



(2) 学習評価の事例 話すこと[やり取り]



単元の評価規準の作成例(話すこと[やり取り])



五つの領域別の目標
「話すこと[やり取り]」

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

五つの領域別の
学年ごとの目標

(各学校で設定するCan-Doリスト形式の学習到達目標)

単元の目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文に引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。(3年、1学期)

単元の評価規準

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

評価規準
(設定例)

<知識>

受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現
【言語材料】
を理解している。

<技能>

野菜の歴史について、考えたことや感じたことなどを、受
【事柄・話題】 【内容】
け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けて
【言語材料】
いる。

友達の意見等を踏まえた自分
【目的等】

の考えや感想をまとめるため
に、社会的な話題(野菜の歴
【事柄・話題】
史)に関して読んだことにつ
いて、考えたことや感じたこ
【内容】
となどを、英文を引用するな
どして伝え合っている。

友達の意見等を踏まえた自分
【目的等】

の考えや感想をまとめるため
に、社会的な話題(野菜の歴
【話題】
史)に関して読んだことにつ
いて、考えたことや感じたこ
【内容】
となどを、英文を引用するな
どして伝え合おうとしている。

単元の指導と評価の計画例（話すこと〔やり取り〕）①



【単元の目標】

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。

【学習活動】

1時

- ・単元の目標を理解する。
- ・教科書の対話文で使われている未知の語の意味や受け身の構造と意味を理解し、対話文の内容に関して引用しながら考えや感想を伝え合う。

2時

受け身を使って作成された教科書本文とは別の対話文を読み、引用しながら、考えや感想を受け身の英文を使って伝え合う。

3時

教科書の対話文で使われている未知の語の意味や現在完了形（肯定文）の構造と意味を理解し、対話文の内容に関して引用しながら考えなどをペアで伝え合う。

4時

現在完了形（完了用法・肯定文）を使って作成した教科書とは別の対話文を読み、引用しながら、考えや感想を伝え合う。

5時

教科書の対話文等で使われている未知の語の意味や現在完了形（完了用法、否定文・疑問文）の構造と意味を理解し、対話文の内容に関して引用しながら考えなどをペアで伝え合う。

6時

現在完了形（完了用法の否定文、疑問文）を使って作成した教科書とは別の対話文や文章を読み、引用しながら考えや感想を伝え合う。

7時

ピクチャー・カードを使い、受け身や現在完了形などを正しく用いながら、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する。

8時

初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。

後日

パフォーマンステスト

【単元の評価規準】 話すこと(やり取り)

- ・受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。
- ・野菜の歴史について、考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。

評価規準・評価方法(例)

知識・技能

【7時】

- ・受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。
- ・野菜の歴史について、考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。(行動観察)

8時 同上

※スライド16-18参照

思考・判断・表現

【8時】

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。(行動観察)

※スライド16-18参照

主体的に学習に取り組む態度

【8時】

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。(行動観察)

※スライド16-18参照

単元の指導と評価の計画例(話すこと[やり取り])②



【単元の評価規準】話すこと(やり取り)

- ・受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。
- ・野菜の歴史について、考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。

評価規準・評価方法(例)

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

- 記録に残すための評価(通知表や指導要録につながる評価)は、基本的には単元末や学期末に実施する。(右の例でいえば、7時・8時・後日実施するパフォーマンステスト)
- ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて、指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

【7時】

・受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。
 ・野菜の歴史について、考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。(行動観察)

8時 同上

※スライド16-18参照

【8時】

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。(行動観察)

※スライド16-18参照

【8時】

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。(行動観察)

※スライド16-18参照



【内容】

「AI の進歩と私たちの生活」に関する記事 (article) を読み、読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。

【準備する課題：指示文の例】

AI に興味をもっている ALT が、「AI の進歩と私たちの生活」に関する下の記事 [Article about AI] に関して、どう考えたり感じたりするか、また互いの意見や感想についてどう思うかについて聞きたいと言っています。そこであなたたちは、この記事を読み、友達と意見交換することにしました。

[Article about AI] を読み、その内容に基づいてペアでやり取りをしてください。読む時間は3分です。

ここで、コミュニケーションを行うための目的や場面、状況を明確にしておくことが、表現内容の適切さを評価する「思考・判断・表現」の評価へとつながる。

[Article about AI]

People have created a lot of things throughout history.

These days, AI robots are used in some areas of our daily lives. AI products will change our lives in the future. It is easy for us to get better lives with AI. There are already some AI products around us, and new ones will be made. For example, an AI fridge will be made in the near future. The fridge will tell us what to cook with the food in it. AI will make our lives happier.

What do you think?

【採点の基準】

「思考・判断・表現」について、単元を通して指導したことを踏まえて以下の3つの条件を全て満たしていれば「b」としている。なお、生徒の実態や指導の状況を踏まえ、全ての条件を満たしていれば「a」、2個なら「b」、1個以下なら「c」とすることも考えられる。

条件1：読んだ英文を引用するなどしている。

条件2：自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。

条件3：相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

指導と評価の一体化の観点から、授業で指導すること（したこと）を条件に位置付ける。

評価の実際②



【採点の基準】

「思考・判断・表現」について、単元を通して指導したことを踏まえて以下の3つの条件を全て満たしていれば「b」としている。なお、生徒の実態や指導の状況を踏まえ、全ての条件を満たしていれば「a」、2個なら「b」、1個以下なら「c」とすることも考えられる。

条件1：読んだ英文を**引用**するなどしている。

条件2：自分の考えたことや感じたことなどを**理由**とともに述べている。

条件3：相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら**対話を継続**している。

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|---|
| a | 誤りのない正しい英文で話すことができる。 | 自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしている。 | 自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。 |
| b | 誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。 | 3つの条件を満たしてやり取りしている。 | 3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。 |
| c | 「b」を満たしていない。 | 「b」を満たしていない。 | 「b」を満たしていない。 |

A: What did you think about the article?

B: I think AI is great.

A: Why do you think so?

B: Article write AI fridge. No waste food if we can use it.

A: I think so, too. Article writes AI makes our lives better.

B: ... My family using AI ... AI 掃除機. We can get free time... You want? Well..., you, you ... (と言って相手の発話を求める手の動きをする。)

A: Yes. I want AI... cleaner. AI product is very useful because it helps us.

実際の生徒のやりとりから、上記のどの条件が当てはまるのかを考えてみる。



評価の実際③



A: What did you think about the article? [条件3 : 対話の継続]
 B: I think AI is great.
 A: Why do you think so? [条件3 : 対話の継続]
 B: Article write AI fridge. [条件1 : 引用] No waste food if we can use it. [条件2 : 理由]
 A: I think so, too. Article writes AI makes our lives better. [条件1 : 引用]
 B: ... My family using AI ... AI 掃除機. We can get free time. [条件2 : 理由] ... You want?
 Well..., you, you ... (と言って相手の発話を求める手の動きをする。)
 A: Yes. I want AI... cleaner. AI product is very useful because it helps us. [条件2 : 理由]



| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-----------|---|--------------------------|--|
| Student A | a 正しい英文で話すことができています。 | b 3つの条件を満たしてやり取りしている。 | b 3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。 |
| Student B | b コミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができています。(No waste food if we can use it.など) | c 条件3(対話の継続)を満たしていない | b 条件3(対話の継続)は満たしていないが、質問しようとする状況はみられた。(You want? Well..., you, you ...) |

評価のための評価で終わることなく、英語表現の正確さを育成するために、どのような表現をすればよかったのか(知識・技能)、対話を継続するにはどのような表現を用いればよかったのか(思考・判断・表現)を、この後に指導することが大切。

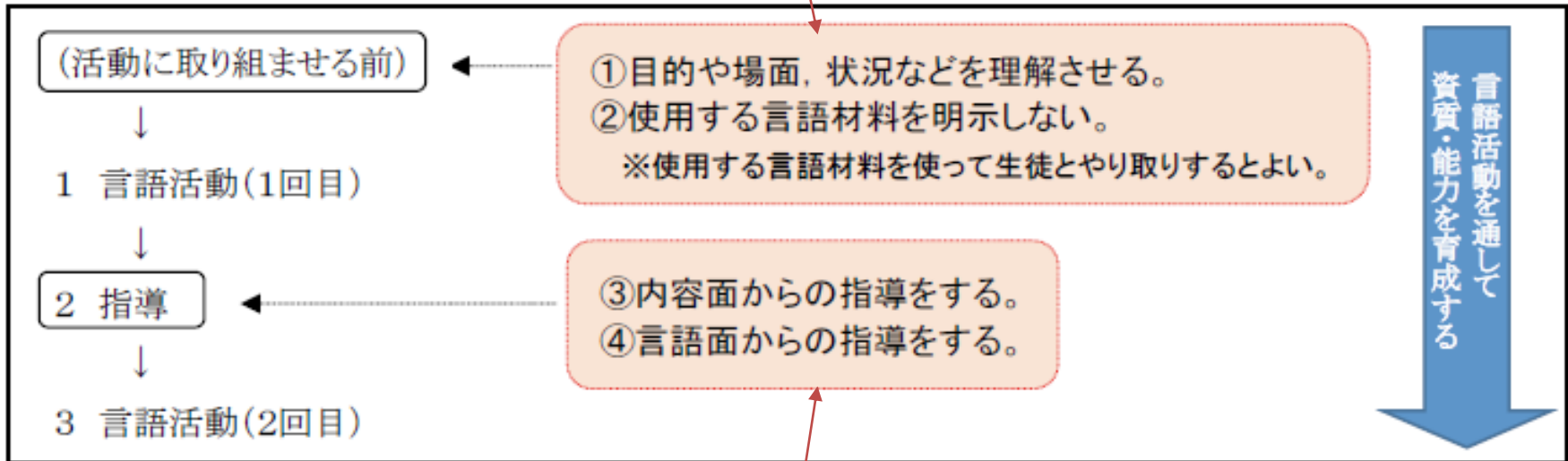


「主体的に学習に取り組む態度」は、基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価する。一方で、Student Bのように、3つの条件を満たしてやり取りすることはできなかったが、しようとしている態度(本事例では、聞き手に配慮しながら対話を継続しようとしている態度)が明らかに見られた場合、「思考・判断・表現」が「c」であっても、「主体的に学習に取り組む態度」を「b」にすることも考えられる。



①②

「この表現を使って話しなさい」と指示したり、「ペアの一方はこのような質問し、もう一方はこのような答えなさい」といったやり取りのパターンを示したりするのではなく、目的や場面、状況に応じて、「何を話す（聞く）とよいか」と「それを英語でどのように表現するか」を生徒に思考・判断・表現させる



③内容面の指導

目的や場面、状況などに応じた発話内容になっているかという点から、いずれかの生徒の発話内容を例として取り上げ、何を伝えるとより良くなるかを全員に考えさせたり、目的や場面、状況などに応じた発話をしていた生徒の発話内容を広めたりする。

④言語面の指導

生徒の発話を取り上げるなどしながら、単語だけによる発話を文にさせること、語順の誤りを修正させること、日本語での発話を英語にさせることなどを行う。

生徒の発話の何を聞き取るか、その視点を明確にした意図的な机間指導

主体的に学習に取り組む態度の評価について



「主体的に学習に取り組む態度」について、基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価をしていくが、以下のような状況が見られれば、一体的に評価をせず、 $c \rightarrow b$ とすることも考えられる。

- ① 振り返りの記述内容から、**自己調整を図ることができていると判断できる。**
(何を意識すれば言語活動に取り組むことができるようになるかを理解している記述例)

自己紹介ができるようになってきました。でも、今日のパフォーマンステストでは、ALT の〇〇先生の質問に答えられませんでした。聞かれていることが分からなかったときは質問すればよかったけれど、緊張して質問できませんでした。今度は、ちゃんと聞かれたことの意味を確認したいです。

- ② 振り返りに記述されていることが、当該単元における**言語活動において**、実際に態度となって表れていた。

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関するポイント】

- 評価の実施時期は、「知識・技能」や「思考・判断・表現」と同様に単元終末や学期末が基本となる。
- 基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価をすることができる。
- パフォーマンステストにおいて、bの条件を満たすことはできなかったが、しようとしている態度が明らかに見られた場合、 $c \rightarrow b$ にすることも考えられる。
- 生徒の振り返りの記述から、自己調整を図ることが出来ていると判断でき、言語活動において実際に態度に表れていると判断できる場合、 $c \rightarrow b$ にすることも考えられる。

(3) 学習評価の事例 読むこと



単元の指導と評価の計画例(読むこと)①



【単元の目標】

あるテーマについての英文を読んで概要、要点を捉えるとともに、その内容を基に自分の意見や考えを伝え合ったり、意見文を書いたりすることができる。

【学習活動】

1・2時

- ・単元の目標を理解する。
- ・教科書本文から必要な情報を読み取り、比較表現がどのように使われているかを確認し、比較表現を使って本文を要約して伝え合う。

3時

教科書本文(第1・2時の続き)を読み、書き手の最も伝えたいこと(要点)を捉え、比較表現を使って本文を要約して伝え合う。

4時

教科書本文(第3時の続き)を読み、要点や概要を捉え、内容を整理した表を使い、本文内容とその内容に対する自分の考えなどをペアで伝え合う。

5時

教科書本文全体のテーマについて、自分の考えなどを伝え合い、自分の考えを再構築してその内容を書く。

6時

教科書本文のテーマについて教師が書いた意見文を読み、概要や要点を捉え、書き手(教師)が一番伝えたいことに対する自分の考えなどを、引用しながら複数のペアと伝え合う。

後日

ペーパーテスト

【単元の評価規準】読むこと

- ・比較表現や受け身に関する事項を理解している。
- ・比較表現や受け身などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。

あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。

あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えようとしている。

評価規準・評価方法(例)

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

※スライド26-28参照

※スライド26-28参照

※スライド26-28参照

【6時】
あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。(行動観察、ワークシート)

【6時】
あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えあおうとしている。(行動観察、ワークシート)

単元の指導と評価の計画例(読むこと)②



【単元の評価規準】読むこと

- 比較表現や受け身に関する事項を理解している。
- 比較表現や受け身などの意味や働きの理解を基に、英文の内容を読み取る技能を身に付けている。

あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。

あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えようとしている。

評価規準・評価方法(例)

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--|--|
| | <p>【6時】 あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。 (行動観察、ワークシート)</p> | <p>【6時】 あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えあおうとしている。(行動観察、ワークシート)</p> |
| ※スライド24-26参照 | ※スライド24-26参照 | ※スライド24-26参照 |

知識・技能 → 「**読んだ内容を捉えている状況**」を評価

思考・判断・表現 → 「**必要な情報、概要、要点を捉えている状況**」を評価

主体的に学習に取り組む態度
→ **基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価**

- 記録に残すための評価(通知表や指導要録につながる評価)は、基本的には単元末や学期末に実施する。(右の例でいえば、7時・8時・後日実施するパフォーマンステスト)
- ただし、**ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて、指導に生かすことは毎時間必ず行う。**活動させているだけにならないよう十分留意する。



【基本的な流れ】

1. 当該学年や当該単元の「聞くこと」及び「読むこと」の目標を確認する。
2. ペーパーテストで出題する問題により評価すること（必要な情報を読み取る／聞き取ること、概要を捉えること、要点を捉えること）を、当該学期で指導した内容を踏まえて明確にする。
3. 評価することに応じてテストを作成する。

【評価に適したテキストの種類例】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 必要な情報 | 広告、パンフレット、予定表、手紙、電子メール等 |
| 概要 | 時系列で書かれた短い説明、意見文、エッセイ、物語等 |
| 要点 | 社会的な話題に関する説明文、意見文、手紙、電子メール等 |

【ペーパーテストの問題として考えられる例】

| | 解答形式 | 問題の種類 |
|-------|------|---|
| 必要な情報 | 選択式 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文（プレゼンテーションやアナウンス）を聞いて、適切な表やグラフを選ぶ問題（L） ・ イベントのポスターから開催日時やタイムスケジュールを聞いたり読んだりして、自分がどの時間帯に参加するかを決める問題 |
| | 記述式 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手の状況や意向、疑問を聞き取り、助言や感想を記述する問題（L） ・ イベント紹介のパンフレット等を読み自分の目的に合うものを選ぶ問題（R） |
| 概要 | 選択式 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の概要に合う絵や図、グラフ、英文等を選ぶ問題 ・ 時系列で話されたり書かれたりしている英文の内容に合うよう、英文を並べ替える問題 |
| | 記述式 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の内容に合うように、表やグラフ等の空欄を単語等で埋める問題 ・ 英文全体の内容に合うようにタイトルを付ける問題 |
| 要点 | 選択式 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の要点に合う英文を選ぶ問題 ・ 英文の要点をまとめた別の文章を選ぶ問題 |
| | 記述式 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の重要な点に合うようにタイトルを付ける問題 ・ 英文の要点について、自分の意見（賛否）とその理由を書く問題 |



思考・判断・表現の評価のためのペーパーテスト例：「要点を捉える」

留学生のトムからあなたに次のようなメールがきました。トムはあなたに何を頼んでいるのでしょうか。アからエの中から1つ選びなさい。

Dear Yuki,

Hello. How are you? I'm fine, and I'm enjoying my life here in Japan.

When I was in Australia, I watched a Japanese TV program on food and found that Japan is famous for noodles. I learned Kagawa is famous for *udon*.

Last weekend, I went there with my family to eat *udon*. There are many *udon* restaurants in Kagawa and we visited 6 of them in one day. Each of us ate 6 bowls of *udon*! Can you believe that? I felt too full to eat any more at that time. However, now, I want to try them again. Anyway, I bought *udon* in Kagawa for you and your grandmother. I will bring them tomorrow so please take some to her. See you soon.

Tom

文章全体の大まかな内容を把握するのではなく、文章から複数の情報を取り出し、どの情報とその説明の中で最も重要であるかを判断する力がついているかを評価する。



評価することを指導し、指導したことを評価することが大切。

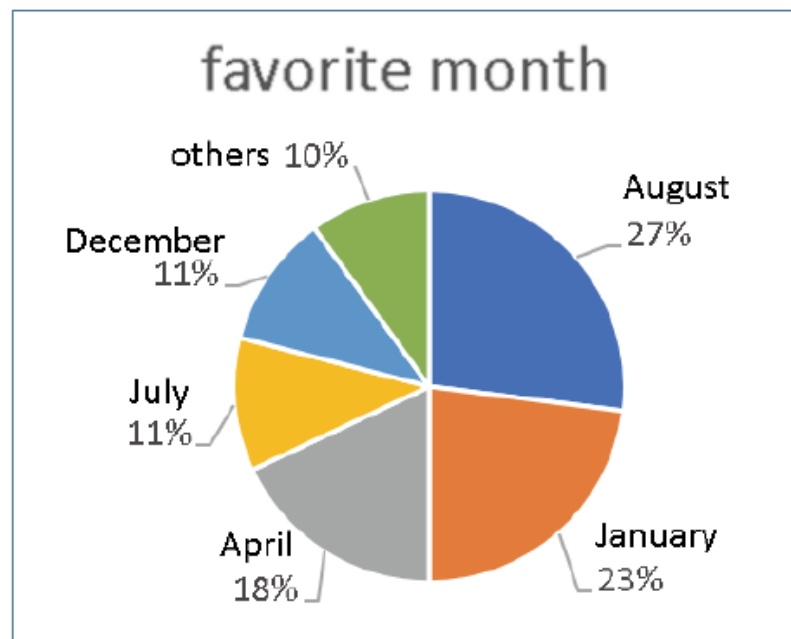
- ア テレビを見てほしい
- イ 届け物をしてほしい
- ウ うどんを作ってほしい
- エ 香川に連れて行ってほしい



知識・技能の評価のためのペーパーテスト例：「読んだ内容を捉えているかどうか」

下の円グラフは、中学生150人を対象に行われた「好きな月調べ」の調査結果です。この円グラフを表す英文として正しいものを選びなさい。

- ① January is the most popular month.
- ② July is not as popular as April.
- ③ April is more popular than any other months.
- ④ December is more popular than August.



当該単元の文法（比較級）を「知識」として理解するだけでなく、右の円グラフを読むために「活用できる技能」として身につけているかどうかを評価する。